

序

紙パルプ製造技術シリーズ第11巻 製造技術入門の発刊にあたって

我々が普段、何気なく使っている『紙』。この『紙』の歴史は古く、発祥は紀元前にまでさかのぼります。古来より『紙』は、様々な目的で使用されてきましたが、なかでも我々人類は、特に文化の形成において、『紙』を用いて表現し、伝え、保存することで多大な恩恵を享受してきました。

「紙は文化のバロメーター」とよく言われますが、コンピューターの発達とともに、インターネットの利用が急速に増え、情報媒体が発達、多様化してきている現代においても、依然として『紙』が我々の文化形成における大きな担い手となっていることには間違いありません。

紙の製造に関わったことのない一般の方々でも、「紙は主に木材を原料として作られている」ということをご存知の方は、比較的多いと思います。ただ、「木材が紙に変身する」までに、どのようなプロセスをたどるか、また木材以外の原材料として、何がどのように使用されているのかについては、製紙業界に身を置く技術者の方々以外にはあまり知られていないのではないかと考えております。一見簡単そうに見える紙の製造ですが、木材や古紙をはじめとする原料を用いて、環境に配慮しつつ、効率良く、さらに高品質な『紙』を製造するためには、本当に多種多様な専門分野の知識やノウハウを必要とします。

紙製造に関わる専門的な知識やノウハウについては、これまでに紙パルプ技術協会より発刊されている「紙パルプ製造技術シリーズ」として非常に詳しくまとめられてきました。本書では、この「製造技術シリーズ」の入門書として、『紙』製造に関わる全般の技術を、一般の方々にも理解して頂けるように、できるだけ平易な形でまとめてみました。このため本書は、特に業務などで紙を取り扱う機会のあるの方々、さらに紙パルプ業界に入ってこられた若手技術者の方々にとっての技術入門書としても、存分に活用して頂けるものになっているものと確信しております。

なお、本書の発刊にあたり、執筆・編集を担当した皆様や図表・データなどを提供して頂いた方々に深く感謝する次第です

2009年11月

紙パルプ技術協会 理事長 長谷川昇